

サポートツール全国キャラバン2014「教材教具研修会」in大分

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告

2015年2月22日（日）

大分県立芸術文化短期大学 人文棟 205 講義室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：大分県発達支援親の会「じゃんぷ」

【研修会開催趣旨】

今年、日本は「障害者の権利に関する条約」に批准した。批准に向けて様々な取組みが進められてきたが、平成23年7月には障害者基本法改正案が可決され、平成24年7月には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされた。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築が求められている。

平成19年4月の学校教育法改正以降、特別支援教育の推進が図られてきたが、こういった流れを踏まえ、全国LD親の会では、平成18年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱を受け、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）（<http://www.jpald.net/research/index.html>）を作成した。

さらに、2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組み、今年度からは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を目指して、通常の学級における特別支援教育を進めるために、通級指導教室でのノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化・様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図った「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業に取り組んでいる。

ユニバーサルデザイン化には、一人一人のニーズを把握するパーソナル化の視点が不可欠であり、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会とともに、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って研修会を開催している。今年度は、2014年9月に富山市で、2015年1月に高知市で、2015年2月に大分市で開催する。

【研修会開催要項】

日 時 : 2015年2月22日(日) 午前10時～午後4時30分
会 場 : 大分県立芸術文化短期大学 人文棟 205講義室
(大分市上野丘東1番11号)

プログラム

1. 講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・堺市立日置荘小学校首席(教諭)/通級指導教室担当・堺市特別支援教育専門家チーム・堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員)

2. 講演2 「作業の工夫で子供たちを元気に！」
～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師 丹葉 寛之

(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表)

3. ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催 : 特定非営利活動法人 全国LD親の会

共 催 : 大分県発達支援親の会「じゃんぷ」

後 援 : 大分県教育委員会、大分市教育委員会、社会福祉法人大分県社会福祉協議会、大分合同新聞社、一般社団法人日本LD学会、一般社団法人日本作業療法士協会、公益社団法人大分県作業療法協会、日本感覚統合学会

事務局 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

Tel/Fax : 03-6276-8985 E-MAIL : jimukyoku@jpald.net

URL:<http://www.jpald.net/>

講演報告

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、まず原因を考えない支援は、子どもにやってもやっても出来ない経験をさせている、その結果子どものモチベーションを下げているという説明から始まった。ここで、特別支援教育には、アセスメントという原因を考えるステップが必要であることを協調した。感想の中で一番多かったのは、「アセスメントの大切さがよくわかった。」「詳しいアセスメントの方法を知りたい」などという内容だった。最初にこの観点の話をさせてもらったので、後半の事例の話をアセスメントの視点で聞いてもらえたと思われる。

さらに具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明していった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多いということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき、本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、実例をだしながら紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。「たくさんの教材が見られて良かった」「使い方を工夫したい」などの感想が寄せられた。

次に紹介する発達障害への支援方法を障害特性との関連で考える手法について説明した。認知への支援、集中や注意のコントロールへの支援などその特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを事例を通して理解出来るように紹介した。子どもの姿をイメージしながら聞いていただけたと思われる。

1時間半を越える講演であったが、会場いっぱいの参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、アセスメントに関わる感想が多かったこと、もっと勉強したいと思ったという意欲的な感想も多く見られた。子どもの様子を思い浮かべながら聞いていただく方が多数おられたことと、子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した、教材もたくさん知ることが出来た、また今後実践してみたいというような積極的な感想を多数いただいた。

講演報告

「作業の工夫で子供たちを元気に！」

～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師 丹葉 寛之（藍野大学医療保健学部作業療法学科講師）

「教材教具研修会」 in 大分では、「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～ というテーマのもと、研修を行いました。「子どもが行っている活動の難しさの原因を考える視点を深めること」、「具体的なサポートについて知ること」、「自分の関わり方を振り返ること」を目的に講義をおこないました。

具体的な内容として、①日常的に子どもが行っている活動分析の視点をトップダウンアプローチで考えること、②活動を一連の行為として捉え、どの部分で困難さを示しているのかを見ていくこと、③活動遂行を、人と作業と環境の3つの視点で捉えていくこととお話ししました。

これらのことを基本にしながら、④学校でよく見られる具体的な場面を通して子どもが行っている活動の困難感について説明を行いました。その中で、活動を心身機能的側面、環境的側面、作業課題的側面から分析し、人と作業と環境がそれぞれどのように関連し、どの側面の問題がどんな影響を与えるのかを考えました。また、子どもの示している活動の具体的なサポートについてもお伝えをしました。

発達障害のある子どもは、私たちの感じ方や、情報の処理の仕方が違うこと、大人側の思いと子ども側の思いが同じではなく、大人の出来るはずと言う思いは通用しないこと、一生懸命努力しているから、疲れやすくて持続して取り組むことが難しいこと、失敗経験が多いことから苦手なことを避けるため、余計に色々なことに対しての経験が少なくなること、私たちと感覚の感じ方の違いがあるため、感覚を上手く調整（選択）して取り込むことが難しいので、心身にストレスがかかりやすいこと、作業をしているとき、姿勢や手の使い方の問題、工程の理解など様々なことが影響し、作業に安心して取り組みことや、満足感、達成感を持ちにくいという特徴について、説明をしました。

色々な困難感を示している子どもたちに対して、人やモノ、環境と上手く関係がとれる方略を見つけていくこと、無理をしすぎない、自分のやり方で、どこを助けて、何を練習すべきかを、明確にしながら支援を行う必要があること、大人が見守り、最小限の協力を行い、自分で出来た喜びを達成できること、作業の可能性を奪わないことが大切になることとお伝えしました。

熱心な参加者が多く、終了後も我が子のこと、クラス児童のことなど様々な質問を頂きました。参加者から、「作業活動がしやすくなるための有効なヒントをいただいた。」「子供に合わせた環境作りが大切と痛感した。」「ちょっとした工夫で子どもの作業がスムーズになることが分かった。」など、様々な感想が寄せられました。

ワークショップ 報告

≪ 1 ≫ ワークショップ プログラム

- ①ワークショップ進行説明
- ②事例になる対象児 ビデオ上映
家庭での食事場面、かたづけ、自転車のり 縄跳び 勉強の場面
- ③グループ毎に子供の特徴、抱えている問題点、支援法を討議
- ④各グループの発表
- ⑤山田先生、丹葉先生より総評
- ⑥質疑応答



≪ 2 ≫ 各グループの発表内容

- ①特徴及び問題点や気になるところ
 - ・箸の持ち方がぎこちない
 - ・指の分離ができていないのか？
 - ・口の筋肉が弱い。飲み込む時に上を向いて呑み込んでいる。
 - ・急いで食べている。口の中に入れすぎ。
 - ・ドレッシングのかけ方がぎこちない。
 - ・縄跳びはひざの曲げ方が少ないのと手首が固い
 - ・自転車はふらふらして乗っている。漕ぎだしの力が弱い
 - ・漢字は見て写すのはできるが、おぼえるのは苦手
 - ・算数はやり方が独特、こだわりあるのか
 - ・イラスト漢字作成、発想がユニーク

②支援方法

- ・勉強の時、背中にクッションを置いてひろい面で支えている。
- ・得意な事はほめて伸ばしつつ、得意でない事は少しずつ取り組む。
- ・耳からの情報は良く入るようなので、そこを活用する
- ・集中できる環境を作る
- ・食事のテーブルの高さがあっていないかも。



≪ 3 ≫ 先生方の総評

①山田先生より

- ・支援の柱として①体幹トレーニング②ボディーイメージを持つ③力のコントロールをおぼえる
- ・漢字はただ書くだけではなく意味や使い方も覚えるように練習させる。
- ・不器用さが書くことを困難にさせているので、たくさん書くのではなく覚える工夫

が必要。

- ・テストや日記から、聞いたものを書いているためか音の聞き違いでの書き間違いがある。
- ・促音の場合語順が変わるところがある。
- ・「や」が「な」が変わるところがある。
- ・同音異義語など文脈のなかで選択するのが難しいようだ。

②丹葉先生より

- ・左右差のあるお子さんだ。右手が弱い
- ・低緊張の為、姿勢や体幹が弱いようだ。
- ・体、首、眼球などの動きがスムーズになるとよい

《4》質疑応答

Q. IPADなどのツールを使って支援をしても良いか

A. 子供の年齢にもよる。低年齢児なら様々な方法でまず少しずつ書いてみる方がよいのでは？ここまで書いたらあとは写真を撮ってよい。など



【アンケート集計】

1. 参加者 人数・属性

○参加者数 68名

○参加者内訳 一般 56名 じゃんぷ会員 12名 計68名

アンケート回収 53枚/68名中

(1) 保護者 19名

(2) 教員 21名 (小12、中2、特別支援学校5、その他2)

(3) 作業療法士 8名

(4) その他 5名

2. 感想

【講演1】「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」

・我が子もそうかもしれないと思う事が沢山あった。問題行動の原因は他にある、漢字が覚えられない理由

・漢字はおぼえるのではなく思い出す・・・今まで思いもしなかった。

・他者に読まれることを想定しない字（親や先生が読むため）を書いている事に気付いた

・まず我が子の困りを知りたい。見極められる先生に見ていただきたい。

・原因を探すことの重要性を理解できた。

・色々な教材、教具があって感動した。

・大変わかりやすく参考になった。楽しく聞けた。

・先生がこどもと同じ立ち位置にいる事が大変素晴らしいと感じた。

・子供達の話がたくさんで引き込まれた。

・認知面の把握を教師がしっかりしておき、何がどこでつまづいているかアセスメントすることが大切と思った。

・現場では担任だけにかかる。一人の力を高めていくのも大切だがS Vで全体の力を高める必要も感じた。

・具体的でとてもわかりやすく、アセスメントの重要性がよくわかった。

・もっと多くの教員に聞いてほしい内容です。

・原因を突き止めてから支援を考える事の大切さを痛感した。

・市販されている教材からどのようにその教材が作られているのかを分析していけば自分で作れるかもと思った。

・教材教具がとても参考になった。

・手持ちの教材を的確に使えていたか？本当に勉強になった。

・問題把握はしていたが、詳細な分析はしていなかったと反省した。

- ・自分の子供（小5）まだ何も言われていないけど、算数や漢字に困りがあるようだ。学校の先生に話すべきか病院に来院するのか、どうしたらよいか悩んでいる。
- ・問題の行動より原因に対応することが重要だという事がわかった。
- ・認知能力に応じた適切な指導についてわかった
- ・今幼稚園年中、特性について勉強になった。
- ・今まで子供に負担をかけていたと気付かされました。先生との出会いが進路の良いきっかけとなった。
- ・とても具体的で面白かった。
- ・特別支援教育は科学的手法で教育に導入するという考え方に目からうろこだった。
- ・たくさんの事例を扱っていただき支援方法を聞かせていただいてとても勉強になった。
- ・日頃の中でゆっくりアセスメント出来ていなかった事を反省しました。細やかなアセスメントに驚きが多かった。年計や個別指導計画の参考にしたい。
- ・放課後デイとして学校と連携した支援をしたいと思った。
- ・ADHDの子供さんの指導はとても参考になった。
- ・アセスメント、分析のすごさに驚きました。教材があることが大切ではなく、使いこなすためのアセスメントの重要性を学ぶことができました。
- ・アセスメントする力をつけていけないと思いますが、どうしたらいいのでしょうか？
- ・二次障害を引き起こさないように、個別の分析をして支援方法を選んでいきたいです。
- ・あれがダメ、これをやらせようではなく、できない理由を理解してその子に合った支援が必要と思った。
- ・一面だけではなく、多面的に物事ととらえるようにしたい。担任の先生も講演に来ていたので共に歩みたい。
- ・ITなどネタ集めを期待して参加したが、子供の自尊心を育てるためにもアセスメントをしっかりとしたい。・親からの大まかな情報のみで、学習場面に関わったことがなかったので、現場の例が聞いたことが良かった。
- ・色々な子供に出会って考えて行くことを積み重ねる事で判ってくる事が多いと感じた。
- ・少し早口なので、聞き取りづらい面もあった。
- ・デイに来ている子供達の学習でどう指導すべきか悩んでいたが、ヒントをたくさんいただいた。
- ・療育現場で悩んでいた。新たに視点、考え方に気付けた
- ・考え方の視点が変わった。広くなった。
- ・分析を詳しく知る方法を学びたい。
- ・明日からの支援の子供達との授業が楽しいものになりそうです。ありがとうございました。
- ・自尊心や子供の気持ちを中心の講座だった。良かった。
- ・誤り分析をこれからしっかりして行こうと思った。



【講演2】「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

- ・参加して良かった。
- ・根本からおおもとの課題を探す事を大切にしていきたいと思った。
- ・困難の原因が様々なところから来るという事が分かった。
- ・いろいろな道具を使ってできる事が増えるといいなと思った。
- ・様々な活動に対する工夫でこれは使えそう！と感じるものがいくつもあった。
- ・感覚統合について再度学ぶ機会となった。
- ・今後のリハの中でも細かく分析するという初心を忘れず行っていこうと思った。
- ・どのような支援をするにもアセスメントが大事という事が分かった。
- ・心身機能がどのくらいできるか、一人一人じっくりとみる事が必要と思った。
- ・出来れば事例ごとに解説していただくとより分かり易かったなと思う。
- ・いろいろな自助具を提供していただきありがとうございます。
- ・改めて支援について考えさせられました。
- ・発達障害に対する視点・評価の仕方をあらためて学べた。
- ・姿勢に関しての評価が1番興味があった。具体的な例をもう少し聞いてみたかった。
- ・作業活動がしやすくなるための有効なヒントをいただいた。
- ・子供に合わせた環境作りが大切と痛感した。
- ・原因を明らかにすることが大切と思った。
- ・自分に足りない視点の大切さを教えていただいた。勉強していきたい。
- ・姿勢や道具の工夫で学習に影響することが良くわかった。
- ・感覚統合がなぜ大事か分かった。(自分の現場での経験で)
- ・姿勢や運動ができていないか 視点の大切さが分かった。
- ・学校に作業療法士が来て定期的にチェックして支援の方法を担当と分かち合えたらいいなあとと思います。
- ・解りやすい講演でした。体での難しさが良く理解できました。
- ・トレーニングの仕方など、明日から実践出来そうです。
- ・自分が思っていたのと違う事がたくさんあった。
- ・力が強い場合、弱い場合で対応の仕方など分からないので作業療法士の方と話す機会を増やそうと思う。
- ・アセスメントの仕方、具体的手立てが良くわかった。
- ・鉛筆の補助具や滑り止めシートなど、早速やってみます。
- ・ちょっとした工夫で子どもの作業がスムーズになることが分かった。
- ・鉛筆や姿勢について具体例を挙げての対処法を教えていただいたので、早速してみようと思う。
- ・感覚や運動という視点をいただけて良かった。
- ・椅子の上に正座する子が何人かいるので原因を分析しなければと思う。

- ・滑り止めシートが有効な子が多いと感じた。
 - ・体幹と手指の困難さがつながっていることを知った。
 - ・作業療法士の方の話を聞く機会がなかったので、貴重な体験だった。
 - ・本人は人知れず想像以上に頑張っている事が解った。
 - ・作業療法士の仕事内容についてのイメージが変わった。
 - ・手先の不器用さを改善する以前に体幹を鍛えたり粗大運動など基礎的なトレーニングが必要とわかった。
 - ・ちょっと難しかったけど、一生懸命聞きました。
 - ・前庭感覚や固有覚が弱いとこうなると聞いて、我が子もそう感じているのかも？と思った。
 - ・体の内側のことがわかったような気がします。
 - ・我が子は箸が持ちにくそう、鉛筆も困難そう、ハサミは上手です。手助け出来れば良いと思う。
 - ・今までした療育がそういう事だったとよくわかった。
 - ・我が子はバランスがとれていないため力を抜くことが難しいようだ。
 - ・少しの工夫で作業の向上が見られる、便利な用具もたくさんありがとうございました。
 - ・感覚が鈍感なため強く力を入れないと作業しているように感じないことがわかった。
 - ・子供に合った支援の教具・教材によって勉強がスムーズにできる事がべんきょうになった。
- これらが学校でも使えると良いと思った。
- ・子供の事を相談できて対処を教えていただけるところが欲しいです。
 - ・子供に対して、見守りと口出しが難しい。
 - ・無理はせず大人は見守り最小限の協力が大切という事が心に残った。
 - ・子供の困りがどの段階での問題かをしっかり理解した支援が必要という事がわかった
 - ・見分けができた支援かどうか・・・考えさせられました。

【ワークショップ】

- ・ビデオやテストなどから分析していく方法を経験できた。現場でも支援法を考えていきたい。
- ・自分にはない視点を他の人から聞くことができ、良かった。
- ・一つの事例でもグループで討議したことで多くの見方や家族、教師など色々な方のいろいろな見方があることがわかった。奥が深い



- ・様々な職種、保護者との話で家庭、学校など連携した支援が必要でと感じた。
- ・様々な視点があり、聞くことで学んだ。
- ・自分で気がつかなかった事を周りの方の発言から気づくことができた。共感することもできた。
- ・学校の先生方などの自分と違う視点を持っている方との意見が面白かった。
- ・学校の先生からの学習面のアセスメントは参考になった。
- ・支援策の選択の基準について多くの考えを知ることができて良かった。
- ・グループワークは楽しかった。
- ・ビデオだけではなくて学習教材を見られて良かったと思う。
- ・一緒に支援していくという事が実感できた。
- ・二人の先生方の解説が勉強になった。抑制とソーシャルスキルの事をもう少し聞きたい。
- ・専門家の方と学校にいる子をいろいろな視点でアセスメントし、支援方法を考えられたらいいと思う。
- ・一人ではなく、複数で話すことは効果的だった。
- ・事例の読み取りを学んだ。
- ・発達障がい保護者とお話しできて情報交換できたのが良かった。
- ・グループにいろいろな立場の方がいて色々な視点でよかった。
- ・プリントから読み取ることがほとんどできなかった。
- ・分析をするのにこんなにたくさんの方が出来るのだと知った。
- ・一人の症例を通して色々考えさせられました。
- ・自分の子供の経験も話せて良い時間が持てた。
- ・自分の子より学年が下なので知りたい支援や情報が少しずれていたように感じたが、参加して良かった。
- ・我慢心を育てる事が大事ですね。
- ・一人の子供をたくさん野大人の目で見るとの大切さを感じた。
- ・自分だけで見ても気がつかない事もたくさんの方の視点で見ると支援方法も分かると思った。
- ・じぶんの子供にも使えそうだった。

【「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をおきかせください】

- ・環境の整え方など、子供たちが達成感を重ねながら学習を積み重ねられるような支援を望みます。
- ・特別支援教育の考え方が通常学級の教育の中にはいってあげてほしいと思う。
- ・まだ支援教育や支援法が周知されていまいと思う。このような勉強会は意義深いと思う。
- ・教員を目指して勉強中です。今日聞いたことを支援の引き出しとして持ちながら勉強していきたい。

- ・家庭と学校の連携は重要とされているが、その中にディを入れていただきたい。放課後等ディは預かる場ではなくて療育の場だと広く知ってほしい。
- ・実際の教育現場での取りくいを知る機会になった。運動や学習を複合した支援の必要性を感じた。
- ・学校現場で、一人一人に合わせた支援が担任の判断で行いやすくなるといいなと思う。
- ・OTとしてなかなか感覚、運動の大切さを伝えるのが困難。遊んでいるだけと思われているのが残念。
- ・地域によって特別支援教育の質や内容に格差があると感じるので、格差が減る事を望む。
- ・他職種で一人の子供の事例を考える機会が増える事を望む。
- ・二次障害的にでてくる精神障害についての支援や実際の事例を通しての話し合いや講演を聞きたい。
- ・中高にユニバーサルデザインの考え方が深まることを願っています。
- ・様々な職種の方との連携があたりまえにやり易くなることを望む。
- ・ワークショップがある事で、聞いたことを考えることができた。
- ・まだ各学校での意識が薄いです。子どもたちの行きづらさを感じる。
- ・今後は保護者の視点で教師との合理的配慮のすり合わせがうまくいった例をHPなどにアップしてもらえると有効な取り組みが広がっていくと思う。
- ・素晴らしい講師の方の研修会、とても勉強になった。今後もあることを望みます。
- ・通級学級がもっと増設されることを望みます
- ・小学校の先生にもっと参加してほしかった。今の小学校の支援教育には不満があります。
- ・学校現場では個々に対応は難しいのかも。保護者が我が子の困りに合わせてサポートツールを勉強できていたら困りを解決できると思う。
- ・保護者と先生方のもっといろいろな話ができるとうれしいです。
- ・大分では特別支援が活かされていないと感じる。



日本財団
The Nippon Foundation

助成事業

サポートツール全国キャラバン2014「教材教具研修会
in 大分は、日本財団からの助成金によって実施しました。